

深井奨学財団（戸山高校奨学基金）からお礼とご報告

公益財団法人深井奨学財団 理事長 井上 尚男

城北会は戸山高校創立100周年記念事業の一環として深井奨学事業を再活性化するため1985年から寄附集めを開始し、100周年時には5000万円強の寄附を頂戴して新生深井奨学事業を始める事が出来ました。以来、城北会会員皆様の継続的なご支援のおかげで2025年3月末には、指定正味財産残高2億2百万円の規模まで本財団を成長させていただきました。ありがとうございました。

2024年度は、会員諸兄姉から頂戴したご寄附が、297名（件数320件）総額4,660,000円（予算：4,400,000円）となりました。厚く御礼申し上げます。なお、前年度のご寄附総額5,050,000円からは、39万円の減額となっております。本年度もぜひ多大のご支援の程をお願い申し上げます。

2014年度から新たに始めた「東京都立戸山高等学校の総合的な教育活動に対する助成」事業に対して、2024年度は、72名の個人会員から合計312,000円の寄附を頂戴しましたこと、御礼申し上げます。なお、深井奨学財団への寄附者のご氏名は、本誌第73号に掲載させていただき謝意を表します。

当財団の2024年度の奨学事業実績は、深井奨学給付生36名に413万円、大学入学お祝い金については、現役生11名、既卒1名（一人30万円）に360万円、合わせて奨学金合計773万円を給付することが出来ました。

また、戸山教育助成事業は、新型コロナウイルスの影響で見合わせとなっていた海外サイエンス研修が2024年3月に再開され、今期も2025年3月のフランス研修参加者10名に対し計60万円の助成金を給付することが出来ました。

2025年度の奨学事業計画は、深井奨学生36名に月々1万円の給付と、大学入学祝い金一人当たり30万円を14名に給付する公益目的奨学事業に、直接費用を含めて1,090万円余の予算を組みました。

また、戸山高校が掲げる「国際社会に貢献するトップリーダーの育成」のミッションに即して、今後とも海外研修奨学助成の重要性が増すことは必至と考え、戸山生に対しての海外研修奨学助成を主に、戸山教育助成予算70万円を組みました。総事業予算は、公益目的奨学事業費、戸山教育助成事業費、管理費等を含め合計1,190万円余の予算を計上致しました。

2025年度の事業計画を実行するに当たり、財源の大半を会員皆様からの寄附金収入に頼らざるを得ず、税制優遇措置（税額控除）が受けられる「奨学寄附金」収入440万円、及び「使途指定（戸山教育助成）寄附金」収入25万円を計上しております。

収支の差額につきましては、会員皆様からいただいた寄附金を原資に運用し、そこから得られた分配金等で賄っていますが、経常的に赤字が続いており、厳しい事業運営となっております。

以上の点をよろしくご賢察のうえ、本年度も城北会の会員の皆様には一層のご支援とご協力をお願いする次第です。

寄附金収入のうち、城北会年会費と同時に振り込む「口座自動振替ご寄附」（深井継続賛助会員）は、初年度の2007年度25名からはじまり、2022年度は80名、909,000円で、2024年度は75名、678,000円でした。本年度も、城北会年会費2,000円、奨学基金1,000円と戸山教育助成へ1,000円と是非積み上げてお振込頂きたく、継続賛助会員の皆様には引き続きご協力をお願いいたします。